

栗田 充治 くりた みちはる



亜細亜大学学長

協会理事、武蔵野市民社会福祉協議会・ボランティアセンター武蔵野運営委員長などを務めた。

専門は倫理学で、本学着任当初から教職課程科目を担当。いち早くボランティア授業を導入し、社会に通用する学生を育成するとともに、地域社会との太いパイプを築いてきた。

1999年に発生した台湾中部大地震では、本学から学生・教職員有志135名による災害救援隊を派遣した際の本部長でもあった。地域ボランティアのみならず、海外ボランティアの分野でも多くの実績を持つ。

本学の建学精神「自助協力」を堅持し、亜細亜大学らしいグローバル人材の育成と、中央線沿線で最もボランティア活動の盛んな大学を目指して邁進したいとのこと。

池島政広前学長の任期満了に伴い、10月1日付で学長に就任した。任期は3年間。広島県生まれ、1975年東京大学大学院人文科学研究科倫理学専修博士課程を修了。1990年本学教養部教授、2001年国際関係学部教授。これまで学生委員長、教務委員長、入試委員長、スポーツ振興委員長などの要職を歴任。対外活動では、日本私立大学連盟大学問題研修運営委員会委員、東都大学野球連盟理事、日本ボランティア学習

著書には『まあるい地球のボランティア・キーワード145―ボランティア学習事典』（編著、2003、春風社）などがある。

加瀬 公夫 かぜ きみお



国際大学学長

加瀬公夫、サエスマルティネスフランシスコ、およびリケルメエルナン（高垣行男監訳、2006）、『現代戦略分析』ロバート・M・グラント（翻訳、2008）など。

本学は国際社会で活躍する高度な専門知識を持った職業人の育成を目指す全寮制の大学院大学で、全授業を英語で行っている。国際経営学研究科は、世界ビジネス・スクール・ランキングで100位以内に日本で唯一ランクイン。国際関係学研究科は、特にアジアの人材育成に力を入れている。修了生は115カ国3800名に及ぶ。2014年にスーパードグローバル大学創成支援に選定され、ABEイニシアティブによるアフリカからの大学別留学生受け入れでは2年連続で最多である。

北岡伸一前学長の任期満了に伴い、2015年10月に学長に就任した。新学長は1949年千葉県生まれ。1972年東京外国語大学外国語学部卒業、1996年マンチェスター大学経営大学院経営学博士取得。米州開発銀行評価局などを経て、2013年国際大学国際経営学研究所研究科長、2014年同副学長就任。専門分野は全社戦略。著書に『欧州のMBA教授が見た好業績CEOの意思決定―戦略判断2つの型―』

新学長は、以上のような国際的な環境およびネットワークを生かして、世界との結び付きをさらに強化していく方針である。

末安 堅二



名古屋学院大学理事長

稲垣隆司前理事長の任期満了に伴い、8月3日付で末安堅二理事が理事長に就任した。任期は3年。

末安新理事長は1944年福岡県生まれ。1967年横浜市立大学商学部卒業後、株式会社東海銀行に入行。専務執行役員東京地区代表を経て、2002年株式会社中京銀行に入行。取締役頭取、2011年から取締役会長を歴任した。2012年から本法人理事を務める。

名古屋学院大学は2014年大学

創立50周年を迎えた。「敬神愛人」を建学の精神に、キリスト教主義の大学として人間性と国際性を柱とする教育を一貫して進めている。さらに社会に貢献する大学、有為な人材の輩出を目指し「名古屋学院大学中長期計画—Look Forward 2014-2023—」を策定。教職員が一丸となって改革を推進している。

新理事長は就任にあたり、「本学の守るべきアイデンティティと、将来を見据えて変えるべきことは何かを見極め、変革すべきことには果敢に取り組み洞察力と勇気が求められる。8学部11学科という整った体制の一層の充実に向け、主体的に行動しよう」と語る。

趣味は、大学時代に素晴らしさを知った男声合唱。本番のステージよりも、音楽に謙虚にひたむきに取り組める練習の方が好きだが、時間確保が難しく断続的な活動とならざるを得ず不完全燃焼状態と話す。

片野 光男



福岡女学院看護大学学長

十時忠秀前学長の学校法人福岡女学院理事長就任に伴い、8月1日付で学長に就任した。

片野新学長は1949年大分県生まれ。1974年九州大学医学部を卒業し、同大学第一外科へ入局。その後、九州大学附属病院第一外科、佐賀医科大学消化器外科などに勤務。米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）留学を経て、1983年佐賀医科大学助手となり、1989年同大学講師、1999年九

州大学大学院医学系研究科腫瘍制御学分野教授。2003年九州大学大学院医学研究院先端医療医学部門教授、2011年九州大学医学研究院医学研究院長・医学部長、2014年九州大学医学研究院附属総合ホーントセンター長などを務める。

専門分野は消化器外科、腫瘍免疫学、免疫療法、腫瘍生物学、緩和外科など。特に、近年は形態形成シグナル系を標的としたがん治療法の開発、緩和外科医療の提唱と普及、腫瘍幹細胞療法開発のための基礎研究、がん微小環境制御によるがん免疫療法、低酸素とがんなどのテーマを研究対象としている。著書は『外科医のための癌免疫療法の理論と実際』ほか、著書・論文多数。

学長就任式では、「学生、教職員がなんのための大学であるかということに常に意識しながら日々成長、自覚できるような大学づくりに励みたい」と抱負を述べた。

**片野光男** 福岡女学院看護大学学長。九州大学医学部卒。同大学医学部第一外科入局後、医学研究院医学研究院長、医学部長などを歴任。専門は消化器外科、腫瘍免疫学など。

**廣瀬良弘** 駒澤大学学長。駒澤大学大学院日本史学専攻博士課程満期退学。文学博士。同大学文学部教授などを経て、'13より現職。前日本歴史学協会会長。専門は日本禅宗史。

**今尾 真** 明治学院大学学生部長、法学部教授。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。'12より現職。専門は民法。編著『フレッシャーズのための民法入門』。

**北條英勝** 武蔵野大学人間科学部教授、学生部長。'98東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得満期退学。修士(社会学)。専門は社会学理論、文化社会学、社会調査論。

**平山令二** 中央大学法学部教授、前学生部長。東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。専門はドイツ語、ドイツ文学。著書は『ドイツ語文法』など。

**桂良太郎** 立命館大学国際関係学部教授、学生部副部長。放送大学客員教授。関西大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。専門は国際福祉学、平和学、里山論。

**阿藤正道** 専修大学商学部教授、学生部長。'86名古屋大学大学院理学研究科化学専攻博士課程後期単位取得退学。理学博士。'10より現職。

**岩崎日出男** 園田学園女子大学人間健康学部教授、教学支援部長。高野山大学院文学研究科博士課程単位取得退学。修士(密教学)。専門は唐代密教の歴史と思想。

**難波功士** 関西学院大学社会学部教授。東京大学大学院社会学研究科修士課程修了。専門は広告史、若者文化史、メディア史など。主著『就活』の社会史、『大二病』ほか。

**宮原 明** 学校法人関西学院理事長。'62関西学院大学商学部卒。富士ゼロックス株式会社代表取締役社長、代表取締役副会長を歴任し、'13より現職。

**金子大輔** 法政大学総務部庶務課主任。

**林 克己** 国立大学法人三重大学防災室長。

**中村匡志** 学校法人関西大学総務局総務課長。'94関西大学経済学部経済学科卒。同大学財務局出納課、総務局人事課、堺事務局堺キャンパス事務室を経て、'14より現職。

**越智祐子** 名古屋学院大学経済学部講師。'07同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程単位取得退学。博士(社会学)。同志社女子大学を経て、'14より現職。

**朴澤泰男** 国立教育政策研究所高等教育研究部総括研究官。'03東京大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。'15より現職。主著『高等教育機会の地域格差』(近刊)。

**兒玉幸憲** 慶應義塾広報室事務員。慶應義塾大学商学部卒。'07慶應義塾に入職し、以来、広報業務に携わり現在に至る。

**内藤克幸** 亜細亜大学経済学部講師。12京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。京都大学経済研究所G・C・O・E研究員を経て、13より現職。

**赤塚達男** 筑紫女学院大学現代社会学部教授。熊本大学大学院文学研究科修了。専門は日本文学、太宰府学。編著『太宰府市史・文芸資料編』。

**末原達郎** 龍谷大学農学部長、教授。京都大学大学院農学研究科博士課程満期退学。農学博士。京都大学大学院教授を経て15から現職。主著『人間にとって農業とは何か』など。

**坂原 明** 聖カタリナ大学人間健康福祉学部教授、大学附属図書館長、人間文化研究所長。名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻後期博士課程単位取得退学。

**新妻佳祐** 上智大学学生局学生センター専任職員。05上智大学経済学部経済学科卒。

**西脇 純** 南山大学人文学部教授。01在トリア教皇庁認可神学部博士課程修了。博士（神学）。論文「カロリング期における聖歌歌唱の靈性について」・悔恨 compunctio をめぐって」ほか。

**瀬戸口龍一** 専修大学総務部大学史資料課。03専修大学大学院文学研究科博士課程退学。日本近世史専攻。共著『専修大学の歴史』「番付で読む江戸時代」ほか。

**重太みゆき** 獨協大学経済学部卒。国際線客室乗務員や都内老舗ホテル勤務を経て、現在は日本初のインプレッショントレーナー®として年間250回以上の講演やトレーニングを行うほか、亜細亜大学経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科非常勤講師を務める。

**山岡三子** フリーアナウンサー。学習院大学卒。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士後期課程修了。博士（社会デザイン学）。名古屋短期大学客員教授。

【お断り】 本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。



文部科学省高大接続システム改革会議から、日本私立大学

連盟と日本私立大学協会で構成する日本私立大学団体連合会（私大団連）宛に、同会議が2015年9月にとりまとめた「中間まとめ」へのヒアリング依頼があったことを受け、当連盟では教育研究委員会できとりまとめた意見を私大団連意見書へ反映させることとした。

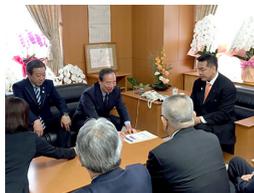
私大団連高等教育改革委員会における協議結果を経て、10月28日開催の高大接続システム改革会議では、当連盟教育研究委員会の松本亮三委員長から、①高大接続に伴う大学教育・入試改革における私立大学の多様な個性の最大限の尊重への配慮、②高等学校教育改革、大学教育改革、高大接続改革が国家百年の計を担う重要なものであることを踏まえた拙速の回避、③約80%の大学生が私立大学に在籍しているという事実と、私立大学の多様性・独自性を尊重した諸改革を進展するための配慮——などを主な内容とする意見を意見書に基づき具申した。

- 9月8日(火) 第6回常務理事会、第5回理事会に出席
- 10月13日(火) 日本私立大学団体連合会役員会に出席
- 10月13日(火) 日本私立大学団体連合会 私立大学災害対策特別委員会に出席
- 日本私立大学団体連合会ならびに日本私立短期大学協会は、東日本大震災発生以降、被災地に係る復興シンポジウムを被災地および東京において開催し、被災地の支援と復旧・復興に向け私立大学が果たす役割と国の支援の重要性などについて意見交換を行ってきた。
- 5年目を迎える本年は、今後も被災した大学や学生への支援の取組みを風化させることなく、これまでの開催趣旨と成果を踏まえ、私立大学関係府予算などに係る私立大学側の要望実現を広く関係者へ訴えるべく開催している「私立大学振興大会」(本年は2015年11月24日開催予定)と連携を図

ることとした。主催団体に加盟する大学・短期大学の関係者をはじめ、教育関係者、報道関係などへ広く参加を呼びかける。

- 10月20日(火) 第7回常務理事会、第6回理事会に出席
- 10月20日(火) 馳浩文部科学大臣を表敬訪問

清家篤全私学連合代表(当連盟会長)をはじめとする全私学連合を構成する各団体会長は、馳浩新文部科学大臣を表敬訪問し、私立学校の実情を訴えるとともに、①各私立学校(幼稚園・大学)の基盤経費である私学助成の更なる拡充②私立学校施設の耐震改築(改修)事業促進に対する支援の大幅な拡充——などを陳情した。



馳文部科学大臣を表敬訪問

2015年秋の叙勲  
(連盟事業関係者)

- 瑞宝中級章
- 中島 巖 (関西大学名誉教授)
  - 半田 正夫 (青山学院大学名誉教授 授・元学長)
  - 牧野 富夫 (日本大学名誉教授・元経済学部長)

2015年文化功労者  
(連盟事業関係者)

- 安西祐一郎 (日本学術振興会理事 長・慶應義塾学事顧問・前慶應義塾長)

開催報告

● 8月27日(木)・28日(金)  
「**教学担当理事者会議 全体会議**」  
一開催

「学生が成長実感をもてる大学教育とは」をテーマに、従来の教育手法論を中心とした大学教育改革の視点に加え、「学生」を主語とし

た学生目線での「成長実感」という視点から、各大学が直面している問題点やより効果的なサポート体制などを共有するとともに、学生自身が成長実感を持つ教育とは何かを考える機会とすべく開催し、52の会員法人から54名の参加があった。

● 9月7日(月)  
「**理事長会議**」開催

「学長の選任・選考方法のあり方を考える——大学ガバナンスの確立との関連で」をテーマに、自律的な学校法人経営ならびに大学経営の一助とすべく開催し、71の会員法人から97名の参加があった。会議では、学校教育法などの改正を踏まえ、現行の学長の選任・選考方法を総括し、その問題点、改革の方向性、取り組むべき課題について協議するとともに、改革に取り組む学校法人では、何を、なぜ、どのように変えようとしているのか(変えたのか)といった事例も交えて討議した。

## 連盟ニュース

●9月10日(木)

### 「国の補助金等に関する説明会 (第1回)」開催

「平成28年度文部科学省概算要求」および「国公立私立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進」、さらに、見直しが行われた「私立大学等経常費補助金並びに大学等設置認可における入学定員及び収容定員の充足率にかかる取扱い」について、文部科学省担当者による報告・説明があった。

その後、各大学の個別質問を受け付けるブースでは、文部科学省担当者による詳細な説明や質疑応答が行われた。

当日は、95の加盟大学から279名の参加があった。



文部科学省担当者による報告・説明後の質疑応答の様子

### 公開報告

●9月24日(木)

2015年6月20日(土)に開催した「FD推進ワークショップ【専任教職員向け】」の問題提起資料およびグループ討議のまとめを連盟WEBサイトへ公開した。2016年4月の「障害者差別解消法」施行にあたり、所属大学で取り組みを推進される際の一助となれば幸いである。

### 〈問題提起〉

「これからの大学の教育支援——障害者差別解消法が求めるもの——」

青野 透氏 (徳島文理大学総合政策学部教授)

### 〈グループ討議〉

①学生の多様化に伴う教育支援やキャンパス整備の現状②新たな支援へのニーズと課題——について、意見交換を行った。

私大連盟WEBサイト (<http://www.shidaien.or.jp/>)へアクセス後、Home▽事業内容▽教育研究



教育の明日を探る

日本私立大学連盟では、当法人の活動、私立大学の教育研究、管理運営等に係るさまざまな情報および国の高等教育政策に係る動向などの社会への発信とともに、情報共有の推進を主目的として、今年度も「私立大学フォーラム(全5回)」を開催します。



お申し込みはこちら

※またはWEBで「私大フォーラム」と検索ください。

## 第5回(大阪) 前門に教養主義の衰退、後門に反知性主義

12月5日(土) 13:00 関西大学

※無料、定員予約制(200名)

意見発表

竹内 洋氏

関西大学名誉教授・京都大学教育学部名誉教授

白井 聡氏

京都精華大学人文学部総合人文学科専任講師

森本あんり氏

国際基督教大学学務副学長

コーディネータ

西村 枝美氏

関西大学学長補佐・法学部教授

座談会 「初年次教育のいま」

特集 「それぞれの大学・立場から考える  
“大学におけるキャリア教育（支援）”とは」

小特集 「留学生へのメンタル/フィジカルな支援をどのように行うか」

表紙・大学点描 西南学院大学 だいがくのたから 昭和女子大学

クローズアップインタビュー：「三上 延さん（作家）」

## 編集後記

◆大学という空間は、全學生が揃うことはまずあり得ない（全員が揃ったら、校舎に収容しきれないかも……）。防災訓練に重なった授業の振り替えをどうするか（シラバスのとおりに授業が進まなくなるではないか！）。地震の時に何をしなければいけないか教えられるといけない（そのために訓練をするんですけど……）——などなど、訓練ができない理由（？）はたくさんある。確かに、事前に解決しておかなくてはならない課題は多いが、かと言って、時間が経てば解決できるものでもない。訓練実施には、思い切りと割り切りが必要であろう。

小特集で取り上げた大学以外にも、防災訓練を行っている大学は多い。小特集という制約上、全ての事例を取り上げることはできなかったが、防災訓練を計画中の大学はぜひ参考にしていただければと考える。

今の日本にいる限り、何らかの自然災害に遭遇する確率は高まっている。日頃から経験を積んでおく必要がある。（広報・情報部門会議（大

学時報）委員・上智大学学術情報局長 大日方 聖信）

◆第14回学生生活実態調査の結果を踏まえて開催した今号の座談会。現代の学生像について、「真面目」「没個性的」「生徒化」といった特長があげられた。では、一昔前の学生像はどうだったのだろうか。

1967年に行った第1回調査の報告書、何気なく開いたページには「平均時給2000円」とあり、思わぬ時代の変化を感じた。アルバイトに関する項目では、今回の調査で70・3%がアルバイトをしているとの回答に対し、当時はアルバイトなどによる収入が無いが過半数を占めており、状況は一転している。また、学習時間は自習時間43分に対し、2・2時間と、今の学生の3倍以上の時間を勉強に費やし、学びの姿勢にも変化がうかがえる。

一方、読書量は、今ほどではないが当時も減少傾向にあることを指摘している。50年近く経過した今でも、ある意味変わらない状況があることを微笑ましく思う。このように、いろいろな読み方で学生像の変化をお楽しみいただけたら幸いである。（日本私立大学連盟事務局 春名 貴明）

## お詫びと訂正

364号「特集 特徴ある正課外教育で学生を教育する」につきまして、編集・発行作業を担う当連盟事務局と編集業者との編集・発行作業の過程においてミスがあり、本来の意図と異なる掲載順番で原稿を掲載してしまいました。ここに事務局よりお詫びを申し上げますとともに、再発防止に努める所存であります。なお、当連盟WEBに掲載しておりますPDF版につきましても、本来の意図を反映した立命館大学、立教大学、愛媛大学、金沢工業大学、東洋大学および早稲田大学へと掲載順番を訂正したものを掲載させていただきます。ご報告申し上げます。

## 私大連盟公式Facebookページ

私大連盟では、公式Facebookページ（<http://www.facebook.com/shidaren>）を開設しています。

次号「大学時報」の進捗報告や「私立大学フォーラム」などの無料イベントに関するご案内など、こことでしか見られない情報も発信しております。ぜひ、ご覧ください。



